

FUJI TELEVISION SDGs ACTION REPORT 2025

パートナーシップで伝える、変える

伝える、変える



— Transforming our World —

「伝える、変える」は私たちのSDGs推進スローガンです。
テレビの強みを生かし、創造力と発信力で世界を変え、
SDGsが掲げる社会課題の解決に努めてまいります。



国連グローバル・コンパクト

WE SUPPORT



フジテレビの親会社フジ・メディア・ホールディングスは2018年4月より「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。

「国連グローバル・コンパクト」は、国連と民間企業・団体が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティ・イニシアチブです。人権の保護、不当な労働の排除、環境への取り組み、腐敗防止の4つの分野10の原則を掲げています。

SDGメディア・コンパクト



フジテレビは2018年12月に「SDGメディア・コンパクト」に署名し、メディアとしてSDGsの推進に努めることを約束しています。

「SDGメディア・コンパクト」は、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

フジテレビのCSR・SDGs推進体制

フジテレビは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月からCSRの専門部署を設け、多岐にわたる活動を行っています。

CSR・SDGs推進会議／プロジェクトチームメンバー

社長を委員長とする「CSR・SDGs推進会議」を設置。社長・役員・局長が出席する「CSR・SDGs推進会議」を年1回開催し、年度の活動報告並びに次年度の活動方針を審議しています。また、各部局から選出された約60人で社内横断組織（プロジェクトチーム）を構成し、そのメンバーとともに活動を実行しています。役職・年齢等に関係なく多様な人材が集まることで、より豊かな発想とアイデアが生まれ、数多くの企画が実現しています。毎年メンバーを入れ替え、社内のCSR・SDGsに対する理解浸透を図っています。



(2025年7月以降は新組織体制に移行)

CONTENTS

- | | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 2. トップメッセージ | 15. 災害から命を守る | 27. 視聴者とともに |
| 3. フジテレビの再生・改革への取り組み | 19. 地球環境のために | 29. 誰もが働きやすい職場に |
| 5. 楽しくアクション！SDGs | 23. 共生社会をめざして | |
| 11. 次世代育成支援 | 26. 顕彰制度／受賞番組など | |

Message from the President



みなさま、平素よりフジテレビのCSR・SDGs推進活動に格別のご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

この度、弊社に関わる一連の問題により、関係するみなさまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。

私たちはこの事態を真摯に受け止め、再発防止と信頼回復に向けて全力で取り組んでおります。事案発生後、ただちに社内「再生・改革プロジェクト本部」を立ち上げ、問題の本質を徹底的に洗い出し、企業風土の抜本的な改革、ガバナンスの強化、人権尊重を中心とした経営への転換を進めております。ハラスメントの根絶、コンプライアンス意識の向上など、社員ひとりひとりが責任を持って行動し、みなさまの信頼を一日も早く取り戻すべく、改革を着実に実行してまいります。

本リポートは、フジテレビが2024年度に実施したCSR・SDGs推進活動を取りまとめたものです。弊社は、テレビ局としては先駆けて2006年にCSR推進室を設置し、社内横断のプロジェクトチームを組織し、アナウンサーによる出前授業を始めとして様々な活動を展開しています。またテレビの持つ「伝える力」を最大限に生かした「楽しくアクション! SDGs」キャンペーンなど、放送を通じて社会課題の発信と行動喚起に努めております。これらの活動は、視聴者のみなさまとともに持続可能な社会の実現をめざす、私たちの使命の一環です。

更に、2025年4月には、社長を責任者とする全社的な「サステナビリティ経営委員会」を新たに設置いたしました。外部有識者のご意見を取り入れながら、人権尊重、人的資本経営の推進、人権デューデリジェンスの継続的な実施など、重要課題への対応を一層強化しております。これらの取り組みは、社会の変化に柔軟に対応し、企業としての持続可能性を高めるための重要なステップと位置づけています。

私たちは、メディア企業としての社会的責任を果たすとともに、未来に向けて持続可能な社会の実現に貢献していくことをめざしています。今後とも、みなさまとの対話と協働を何よりも大切にしながら、サステナビリティ活動を着実に推進してまいります。引き続き、温かいご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

清水賢治

フジテレビの再生・改革への取り組み

フジテレビは番組出演タレントと元従業員の女性との間で生じた事案を受けて、以下の取り組みを順次実施、公表してきました。

2025年1月23日 事実関係の調査及びフジテレビの事後対応やガバナンスの有効性を客観的かつ独立した立場から調査・検証するため、利害関係を有しない弁護士で構成する「第三者委員会」を設置しました。(3月31日に調査報告書を受領)

2月6日 第三者委員会の結果を待たずに、フジテレビが抱える課題に正面から向き合い、組織の在り方を見直し、信頼とブランドの再構築をめざすために「再生・改革プロジェクト本部」(本部長:清水賢治代表取締役社長)を立ち上げました。

再生・改革プロジェクト本部では、フジテレビ社員だけでなく、社内外の幅広いステークホルダーとの「対話」を実施し、「ビジネスと人権」やガバナンス・組織風土に関する知見を有する外部の専門家である弁護士や公認会計士等から、専門的な助言を得ながら様々な検討を重ねました。

進捗については、その都度公表し、3月31日にはフジテレビの抱える諸課題について分析・評価をした結果をもとに「フジテレビの再生・改革に向けたプラン」を策定・公表しました。

2025年4月以降は、第三者委員会の調査報告書での指摘を踏まえ、「組織として何を間違えたのか、どう変わるべきか」について取締役会をはじめ、役職員の様々なレベルで議論を重ねるとともに、「フジテレビの再生・改革に向けたプラン」を見直し、強化しながら、取り組みの実行を進めました。

4月30日には、再発防止のための抜本的な企業風土・ガバナンスの改革に向けた具体的な取り組みとそれまでの進捗状況をまとめた「フジテレビの再生・改革に向けた8つの具体的強化策及び進捗状況」を公表しました。以降、項目ごとに強化策を実行し、毎月その進捗状況の開示を続けています。

なお、取り組みの中でも最重要と考え進めてきた女性への謝罪は、6月19日に清水社長が直接面会し行われました。

フジテレビは再生・改革に向けて8つの具体策を実行します

人権・コンプライアンス意識向上・体制強化

1 人権ファーストを徹底する仕組みを作ります

役員、社員ともに人権意識が希薄であるとの指摘に対応するため、人権ファーストを体現する組織体制にします。取締役会の下に、独立性の高い社外出身の取締役がトップの「リスクポリシー委員会」を設置し、人権リスクを含む執行側のリスク対応全般を監督する仕組みを導入します。また、「サステナビリティ経営委員会」を設置し、外部アドバイザリーボードによる助言を踏まえつつ、日々の経営の意思決定に常に人権方針が反映され、人権DDが適切に継続される仕組みを作ります。

2 人権侵害、ハラスメント被害者を守り抜きます

社内のコンプライアンス部門や相談窓口の信頼性を強化するための対策を講じます。従来の相談窓口を見直し、第三者委員会からの指摘と助言の下、外部弁護士に直接相談ができる窓口を新設します。また、臨床心理士によるメンタルサポートを受けられる体制を整備した上で、分かりやすく周知し、幅広い相談に応えます。コンプライアンス部門の体制強化と人員増強も行い、より声を上げやすい、相談しやすい、心理的安全性の高い組織を構築します。

3 コンプライアンス違反への厳正な処分を行います

一部の事案において、違反に対して適切な処分が行われていなかったことを真摯に反省し、賞罰審査委員会における処分決定のプロセスに、外部専門家の知見を取り入れて改善します。また処分の内容をイントラネットに掲示し、“見える化”を徹底、全ての社員に当事者意識を促し、再発防止とコンプライアンス意識の浸透を図ります。

4 危機・リスクを減らす仕組みを導入します

平時から、コンプライアンス担当役員直下にフジテレビにおけるリスクを日常的に特定・評価し、危機を未然に防止するための「リスク評価・対応チーム」を新設。また重大な経営リスク発生時には全社横断的な「リスク対応コントロールセンター」を立ち上げ、必要に応じ弁護士・メディアアドバイザー・医師など外部専門家の意見を直に取り入れることができる体制とし、密室・少人数での誤った判断を防ぎます。

ガバナンス改革・組織改革

5 編成・バラエティ部門を解体・再編 アナウンス室を独立へ

社内の一部に「楽しくなければテレビじゃない」を過度に重視した風土が根付いていたことを重く受け止め、**編成局、バラエティ制作局などの制作部門の組織を解体、再編**します。また編成・制作がキャスティングをする側、アナウンサーがされる側、という従属的な関係性が問題を生んだと認識し、**アナウンス室を編成・制作部門から独立**させます。番組との調整役を果たす「コーディネーター制度」を創設し、番組への起用方法、マネジメントの流れを見直します。

6 役員指名の客観性・多様性・透明性を確保します

役員の指名プロセスや人材配置の透明性が低かったことを認識し、**相談役・顧問制度を廃止**するとともに、**役員定年制を厳格化し、在任期間の上限を設定**いたします。以上の施策によって、特定の個人に長期間権限が滞留しない仕組みを構築します。また、次世代の経営人材を育成するための**サクセッションプラン（後継者育成計画）**を導入し、事業の継続性及び持続的な成長を実現していきます。

7 女性比率UPと若手登用で多様性を実現します

男性優位構造が思慮に欠けた経営判断やハラスメントに対する感度の低さを招いたとの指摘を重く受け止め、**人材に多様性を確保**することを重視します。女性役員は30%に達しましたが、**取締役の女性比率を継続して3割以上**とします。管理職の女性比率も1年以内に3割にします。女性リーダーの育成に加え、**若手も積極的に登用**しながら、中堅若手社員も安心して自由な意見を発信できる環境を整え行動指針を見直します。

8 公共性と責任を再認識し、企業理念を見直します

「楽しくなければテレビじゃない」から脱却し、放送法の原点に立ち返り、公共性をもって社会に貢献できる企業となり、**社会の公器としての役割**を果たします。取締役会が**責任と覚悟**を持って人権尊重意識の定着、人権侵害リスクの特定と予防・是正のため不断の取り組みを推進し信頼を取り戻します。「リブランディング」では中堅若手の声を吸い上げ、**内外のステークホルダーとの対話**を通じ企業理念を見直します。策定プロセスも、視聴者・国民の皆様へ詳細に発信します。

(2025年4月30日発表)

フジテレビは、今後も人権・コンプライアンスやガバナンスに関する実効性のある体制を構築して着実に改革を実行し、皆様の信頼回復に努めてまいります。

フジテレビの再生・改革に向けた取り組みの進捗状況は、随時公式サイト等で公開・アップデートしておりますので、ご覧ください。

●フジテレビ公式サイト－企業情報

<https://www.fujitv.co.jp/company/>

●フジ・メディア・ホールディングス公式サイト－新たな経営体制に向けて

<https://www.fujimediahd.co.jp/reform/>

フジテレビでは今回の事案を受けて、コンプライアンスガイドラインを見直し、ハラスメント処分厳正化やカスハラにも新たに言及するなど、コンプライアンス体制の強化を図りました。

●フジテレビコンプライアンスガイドライン

https://www.fujitv.co.jp/company/compliance/pdf/compliance_guidelines.pdf



「楽しくアクション!SDGs」アンバサダー EXIT

サステナブルな未来の扉をともに開く
伝えることでアクションを起こすきっかけを！



2021年からフジテレビ・BSフジ・ニッポン放送を中心にフジ・メディア・ホールディングス各社が連携し、SDGsを推進するプロジェクトを展開。番組やイベントを通じて持続可能な社会、豊かな未来のためのアクションを促す発信を続けています。



アクションお台場ファーム

SDGs推進キャンペーン「楽しくアクション!SDGs」の一環として、フジテレビ・BSフジ・ニッポン放送の3社を中心に、2024年4月からフジテレビ本社屋で「アーバンファームプロジェクト」をスタートさせました。都市の空きスペースや屋上などを利用した都市型農園は、地産地消、CO₂削減による環境保全、地域コミュニティの活性化などにも役立つとされています。



人と自然 人と人がつながり未来を創る



アグリテインメントで楽しく環境貢献

「アクションお台場ファーム」では、登録した利用者みんなで野菜を育てています。タネまきからお手入れ、収穫まで楽しくシェアし、参加するだけで食や環境の課題に貢献できる仕組みになっています。農とエンターテインメントを掛け合わせた「アグリテインメント」で、手軽に楽しく、自然や生物に触れる機会を提供。気候変動や、自然との共生などについて考えるきっかけを、利用者や視聴者に届けています。また、お台場ファームで育てているのは、日本で古くから伝わる【伝統野菜】です。時代の流れのなかで、姿を消しつつある多様なタネを未来につなげていきたいと考えています。



農体験・イベントを通じた交流の促進

春



・土づくり
・近隣企業や社内スタッフとのタネまきイベント

夏



・近隣企業などと交流会
・お台場冒険王で一般開放来場者にタネプレゼント

秋



・近隣の園児とタネまき体験

冬



・近隣の園児と収穫体験



テクノロジーでもっと楽しく

農園の設置、運営は、農とアプリやクラウドサービスなどを組み合わせた次世代型アグリテインメントプラットフォーム「grow」を展開するプランティオ株式会社と連携して行っています。野菜の栽培には、最新のテクノロジーも導入。IoTセンサーによって日照量や、土壌水分量など栽培に重要なデータを計測し、それを基にした発芽時期や水やりのタイミングなどのアドバイスが受けられる他、CO₂削減量などが可視化されるβ版機能なども利用し、環境負荷低減への見える化にもつなげています。



公式サイト https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/odaiba_farm/

LINE公式アカウント <https://line.naver.jp/ti/p/%40855sajxu>



みんなで育む、たのしい未来

消費するだけでなく、自分たちの手で創造するというアーバンファームの活動を通じて、様々な企業や団体など想いを同じくする人とつながり、サステナブルな社会づくりに向けたアクションを広げています。番組などでも、ファームの取り組みを発信し、気候変動や環境問題、自然との共生、生物多様性などについて楽しく、わかりやすく伝えています。



伝え、アクションの輪を広げる！



番組・SNSで発信

お台場ファームの取り組みなどは、番組やSNSで発信しています。

- ・楽しくアクション！SDGs YouTubeで配信
楽しくアクション！SDGsキャンペーンのアンバサダーで、お笑いタレントのEXITがタネまき！
- ・楽しくSDGsを学ぶ番組『サステイナ!』で紹介
MC・倉科カナさん、SHELLYさん、神尾楓珠さんが農体験し、番組で紹介
- ・BSフジでアーバンファーム特別番組を制作
お台場ファームの取り組みや、都会で農を実践している人々の想い、企業の環境保全の取り組みを紹介。
都会でとれた野菜を使ったレシピも披露



「お台場冒険王2024」で 「未来を耕すムヒカの農園」として開放

夏のイベント、「お台場冒険王」の期間中、お台場ファームは「未来を耕すムヒカの農園」としてバージョンアップしました。世界一貧しい大統領といわれた、ウルグアイのムヒカ元大統領のメッセージなども掲載し、“多くを求めず、人にも地球にも優しく寄り添い、ともに生きるためのヒント”が詰まった温かい空間になりました。この期間は一般開放し、多くの来場者を楽しんでいただきました。訪れた子どもたちには、野菜のタネをプレゼント。日ごろ食べている野菜の育つ様子を見たり、その場で試食したりと、都会での農を体感していただきました。期間中には、ムヒカ元大統領の生き方や言葉に触れながら、日本人との知られざる絆をひも解くドキュメンタリー映画『ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ』の上映会も実施しました。

【お台場冒険王】7月20日～8月25日開催



- (上) EXITのタネまきの様子 [YouTube https://youtu.be/KA6LRdQJvt8](https://youtu.be/KA6LRdQJvt8)
(中) 『サステイナ!～こんなとこにもSDGs～』 8月10日9:55～10:25放送
(下) 『太陽とすずの植彩エプロン～採れて! 都会畑のごちそう～』
9月28日16:00～16:55放送(BSフジ) 10月9日27:15～28:15放送(フジテレビ) 11月16日25:00～25:55再放送(BSフジ)

伝えることでアクションを起こすきっかけを



楽しくアクション!SDGsウィーク

2024年9月16日～30日の2週間、持続可能な未来のために、今何ができるのかを考える「アクションSDGsキャンペーン」を実施。番組やイベントを通じて多様な視点から、地球の今を伝えました。

報道、情報のレギュラー番組『Live News days』『Live News イット!』『めざまし8』などの7番組を中心に、毎日SDGsにまつわるトピックスを放送しました。期間中に取り上げた企画は約40本、「企業の環境に配慮した工夫」や、「地球にやさしいモノづくり」「多様な価値を尊重する社会づくり」など、様々な立場で奮闘する人々の姿や想い、取り組みなどを紹介した他、気候変動による温暖化のメカニズムなどを、視覚的にもわかりやすい実験を通して解説しました。

また、『週刊フジテレビ批評』では、気候危機の課題解決に向けたメディアの役割についての議論も実施し、これからの報道のあり方についても考える機会となりました。

豊かな未来に向けて、私たちひとりひとりの行動を変え、世界を変えるために、伝え、ともに行動していきます。

放送300回 世界初のSDGsレギュラー番組 **フューチャーランナーズ**
17の未来



番組で紹介した“ランナー”たちをつなげる「フューチャーランナーズMeet-up2024」を開催

情熱を持って走り続ける人を紹介

『フューチャーランナーズ～17の未来～』

世界初のSDGsをテーマにしたレギュラー番組。

2018年7月の放送開始以来、SDGsの課題解決に向けて情熱を傾ける人々を追ひ、その活動や想いなどを紹介しています。これまでに“世界を変えたい”という熱い想いを持った327人を取り上げてきました。「できない」を「できる」に変えてきた変革者たちのつながりを広げて、アクションを加速させようと、2024年11月には出演者らが集うイベントも実施しました。番組では英語字幕を付けている他、過去の放送回は、すべて公式サイトで視聴できます。

毎週水曜22:54~23:00放送(関東ローカル) 毎週土曜21:55~22:00放送(BSフジ)

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

※2025年9月で終了

SDGs関連番組で多角的に発信



『サステナ!』 ～こんなところにもSDGs～

SDGsを楽しく学べる情報バラエティ番組。ファッションやグルメ、地方創生プロジェクトなど身近な話題から、最先端の取り組みまで、様々なテーマを若者の目線で伝えました。

毎週土曜 9:55～10:25放送

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustaina/>

※2025年3月で終了



『地球との約束』 ～心に刻む景色～

日本各地の多様な風景のなかから毎回1ヶ所を取り上げ、紹介。美しい映像と自然が奏でる音、その風景を守る活動にもフォーカスしました。

毎週火曜 22:54～23:00放送 (関東ローカル)
毎週水曜 21:54～22:00放送 (NST新潟総合テレビ)

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chikyuu/>

※2025年3月で終了



『街角パレット』 ～未来へのたからもの～

街が奏でる多彩な色のなかに、地域の多様性や不変性を見つけ、その街らしさを探ります。未来に残したい地域の姿や、そこに宿る想いを伝えます。

毎週日曜 11:45～11:50放送 (関東ローカル)

公式サイト https://www.fujitv.co.jp/machikado_palette/



『体感! サステナWAVE』

SDGsを自分ごとに! フジテレビアナウンサーが、サステナブルな取り組みを体感。不用品をアップサイクルしたり、無駄をなくす再利用法などを紹介しました。

毎週火曜 21:54～22:00放送 (関東ローカル)

公式サイト https://www.fujitv.co.jp/sustaina_wave/

※2025年3月で終了



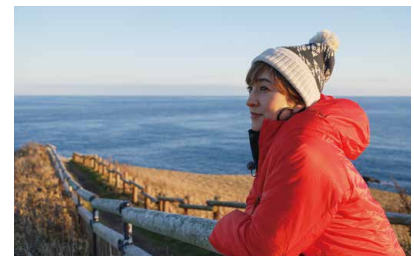
『GO! GO! チャギントン』

子どもたちに大人気の『チャギントン』の番組内でSDGsについて学べるコーナーを月1回放送。親子でSDGsに親しめる内容をやさしく伝えました。過去の放送は公式YouTubeで視聴できます。

毎週日曜 6:15～6:30放送

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chuggington/sdgs.html>

※2024年8月でコーナーは終了



『アースウォーカー14～ラッコは地球を救う!? 北海道・泥炭と昆布が育む生命の秘密～』

滝川クリステルさんの地球冒険紀行。本来の地球の姿とはどんなものだったのか、そこに暮らす生き物たちの姿を見つめ直し、私たちがこの地球で暮らしていくための、あるべき姿を追いかけてみます。

12月31日 6:00～7:00放送

公式サイト https://www.fujitv.co.jp/b_hp/earthwalker/

農林水産省と連携 日本の“食と農”を考えるイベントに参加



『NIPPON FOOD SHIFT FES.東京2024』 『ノンストップ!』トークイベント開催

農水省が主催するイベント「NIPPON FOOD SHIFT FES.東京2024」が東京・丸の内で開催されました(10月19・20日)。4回目となるこのイベントは、毎年様々な視点から日本の「食」と「農」が抱える課題や、めざす未来についてみんなで考えることを目的としています。フジテレビは去年に続き、情報番組『ノンストップ!』がトークイベントを開催し、今回はキッチンカーも出店しました。今回注目したテーマは「米」。生産や供給、価格に影響を与える気候危機や、人手不足など生産者を巡る厳しい状況をどう解決につなげるか、今私たち消費者にできる行動を議論、その様子を放送しました。

10月25日『ノンストップ!』で放送(毎週月曜～金曜 9:50～11:30放送・関東ローカル)

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/nonstop/>

楽しくアツクイ! SDGs

Support for the Next Generation

次世代育成支援

子どもたちの笑顔と未来のために

子どもたちの可能性や選択肢が広がり、その未来が笑顔あふれるものになってほしいという想いで、多様なプログラムを提供しています。アナウンサーをはじめ、フジテレビで働く社員・スタッフが子どもたちと直接向き合い、コミュニケーションやテレビの仕事などを伝えています。





2024年度の実施 19校 1,365人

20年間で延べ328校 約2万5,870人 (2025年3月末現在)

・講座内容: インタビュー&スピーチ/音読
・対象: 関東1都6県の小学3年生～6年生

アナウンサーによる出前授業 「あなせん」



人とつながり、伝え合う喜びを

フジテレビアナウンサーによる「言葉を通じたコミュニケーション」の出前授業を実施しています。2005年にアナウンサーが主体となって始めて以来、300校以上の小学校で授業を行いました。新人からベテランまで、ほぼすべてのアナウンサーが先生として各地の学校を訪れ、子どもたちと触れ合っています。

授業で大切にしているのは、人とつながり、豊かな人間関係を築いてもらうためにも、“伝え合う喜び”を感じてもらうこと。自信を持って自分の想いを伝え、そして相手の想いもしっかりと受け取ることができるように、アナウンサーのスキルとテレビ局の持つエンタメの力で子どもたちのコミュニケーション力向上を応援しています。

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>

アナウンサーからのメッセージ

子どもたちと接していると、表情が変わる瞬間があります。これまで気付かなかった自分の新たな一面を発見した時や、相手と想いを通わせられた時。少し恥じらいながら、でも嬉しさが込み上げたいきいぎとした表情は、こちらまで温かい気持ちになります。子どもたちの姿を見てると、日々の小さな「できた」の積み重ねが私たちの背中を押してくれるのだなと実感します。「あなせん」での体験が、目標に向かって進んでいく際のちょっとした手助けになれば嬉しいです。

山崎夕貴(フジテレビ アナウンサー)

「あなせん」で学校に何うたびに、インタビューやスピーチに挑戦する子どもたちの、「これを聞きたい」「これを伝えたい」という素朴な想いこそ心をつなぐことを実感し、勉強になります。小学生のやさしい感性で、言葉を思う存分かみしめ、味わってほしいです。そして、地域で家族以外の大人と話す機会が減るなかで、将来何をしたいのかを考えるきっかけになるような、他者との出会いの経験になってくれればと願っています。

上垣皓太郎(フジテレビ アナウンサー)



「音読」を通じたコミュニケーション力の向上を応援



生演奏と音読の融合

東京文化会館とコラボレーション授業

「あなせん」特別編として、東京文化会館のアウトリーチ活動とコラボし、生演奏とアナウンサーの朗読を組み合わせたプログラムを2016年から実施しています。発声や滑舌などの練習をした後、トランペットやホルンなどによる金管五重奏に合わせて、アナウンサーが「ウエストサイド物語」を朗読しました。

東京[足立区立花畑北中学校]11月14日実施 [清瀬市立清瀬第五中学校]2025年2月8日実施



子どもたちの非認知能力を伸ばす

「ダヴィンチマスターズ」で「あなせん」応用編実施

子どもたちの非認知能力向上のために生まれた一般社団法人「ダヴィンチマスターズ」のイベントで、言葉を通じたコミュニケーションの授業を開催しました。親子で音読が楽しめるように、保護者向けの授業も展開。体を動かしながら、登場人物の心情や、情景などを想像し、表現する楽しさを伝えました。

7月28日・12月15日実施



親子で音読を楽しもう

「デジタル紙芝居」

フジテレビの美術担当者によるオリジナルの作画とアナウンサーの朗読による作品を制作。世界や日本の名作を題材にした8作品と、教科書会社 光村図書とコラボした「やまなし」「ふきのとう」などを、サイトで掲載しています。系列局とも連携し、各地域の方言なども交えた作品も公開しています。

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/>



デジタル紙芝居を使った音読講座

武蔵野プレイスでの特別授業

東京都武蔵野市にある青少年活動支援等のための複合施設、武蔵野プレイスで奥寺健アナ、大川立樹アナが小学生を対象に、音読の特別授業を実施しました。国語の教科書に掲載されている「やまなし」を、音楽や効果音の入ったデジタル紙芝居に合わせて読み、物語を自分なりに解釈して、自由に表現する楽しさを伝えました。

12月3日実施

親を頼れなかった子どもたちが想いを語る スピーチ指導



人知れず苦しんでいる子どもたちに光をあてる

「コエール」でスピーチ指導

認定NPO法人ブリッジフォースマイルが運営する広報・啓発活動「コエール」をサポート。親を頼れない子どもたちを社会全体で支えたいという趣旨に賛同し、2012年からこの活動を応援しています。

2024年度も、虐待や貧困などで親を頼れなかった子ども時代を過ごした当事者の声を届けるスピーチ配信に向けて、アナウンサーが「声の出し方」や「滑舌法」「効果的な伝え方」などをオンラインで指導しました。

5月19日実施

子どもたちの可能性と選択肢を広げる 食育・キャリア教育サポート



大型紙芝居で食育を学ぶ 「ハロー!どっこくん」

バランスよく食べることや運動、排泄の大切さを教える出前授業を実施。うんちのキャラクター「どっこくん」のオリジナル紙芝居と体操で楽しく学びます。

広島 [順正寺こども園]9月7日実施
愛知 [一宮東部保育園]9月19日実施
[久国幼稚園]9月20日実施
愛媛 [ゆめの森こども園]2025年1月23日実施
[アイگرانこども園麻生]2025年1月24日実施
東京 [宮の下保育園]2025年1月31日実施



将来の夢を応援 「かけはしプロジェクト」

メディアリテラシーやテレビの仕事についての疑問に答えるキャリア教育サポートを行っています。授業でメディアや情報について学ぶ小学5年生の児童から、質問を動画で送ってもらい、各部署のスペシャリストが動画でお答えしています。



テレビの仕事を知ろう! 縄電車でフジテレビ冒険ツアー

フジテレビの夏のイベント「お台場冒険王」の期間中に、社内を見学し、スタジオカメラや音声マイクなどの技術を体験できる催しを実施。更に社屋前にマラソン中継車を設置し、たくさんの子どもたちに仕事体験してもらいました。

8月19日・20日実施

病気と闘う子どもたちに笑顔を届けるプログラム



産経新聞社 提供

入院中の子どもたちに楽しい時間を 「ハーティープロジェクト」

病気と闘う子どもたちに笑顔あふれる体験の場を提供しています。2023年から、フジテレビ、産経新聞、国内外の心臓病の子どもたちを救う「あけみちゃん基金(産経新聞厚生文化事業団)」と共同で実施。アナウンサーが病院を訪れ、子どもたちと一緒に『めざましテレビ』の人気コーナー「きょうのわんこ」のナレーションを読むなど声を出して楽しめる時間を届けました。

[富山大学附属病院]5月10日実施 [東京大学医学部附属病院]7月17日実施



難病の子どもたちに北海道の大自然を感じてもらおう 「そらぶちキッズキャンプ」

北海道滝川市にある難病の子どもたちを対象とした医療ケア付きキャンプ場「そらぶちキッズキャンプ」と連携し、オンライン生中継イベントを実施。安宅晃樹アナが、全国各地の病院や施設の子どもたちからの質問に答えながら、北海道の大自然や動物の魅力を伝えました。また、実際に雪の感触を楽しんでもらうため、北海道から雪を病院や施設に届けています。

2025年2月6日・7日実施 全国各地18の病院・施設の約100人の子どもたちが参加

若い才能を発掘・応援



若脚本家の発掘をめざす 第36回ヤングシナリオ大賞が決定

若脚本家の発掘をめざして1987年に設立されたシナリオコンクール。36回目となる2024年度は応募総数1,585編のなかから石田真裕子さんの作品「人質は脚本家」が大賞に選ばれました。作品はフジテレビでドラマ化し、放送します。

このコンクールは、若脚本家の登竜門とも呼ばれ、野島伸司さん、坂元裕二さん、野木亜紀子さんや生方美久さんなど、数多くの作家を輩出してきました。新たな才能を発掘、育成し、手を携えて新しいソフトを創り続けていきます。

左から 三嶽咲さん(佳作) 石田真裕子さん(大賞)

Protect Lives from Disasters

災害から命を守る

テレビの力を生かして 防災・減災力向上を

被災地の復興を支援するとともに、少しでも今後の被害を減らし、ひとりでも多くの命を救うために、テレビの力を生かした防災・減災への取り組みに力を入れています。



福島・楢葉町
6.2mの防潮堤を越え町を襲った津波
震災特別番組『わ・す・れ・ない』より



地震と大雨で被害を受けた石川県・能登の被災地で炊き出しを行い、復興支援活動に参加
2025年1月1日放送

『さんタク』令和6年能登半島大雨災害被災地支援

義援金 805万1,215円 (2025年1月1日～16日)

正月恒例の特別番組『さんタク』では、石川県輪島市でロケを行い、復興が遅れている被災地のために募金を呼びかけました。
義援金は日本赤十字社を通じて、被災地支援に活用されます。

ずっとおうえんプロジェクト

震災などによる被災地を継続支援

東日本大震災以降、地震などの大規模自然災害による被災地の支援を続けています。被災地のこと、そしてそこから学んだ教訓を「ずっとわすれない」という想いで、テレビ局ならではのコンテンツを生かした支援、発信をしています。

能登半島地震の被災地に元気と笑顔を届ける



ガチャピンが被災地を訪問 被災小学校で子どもたちと触れ合い

石川県の輪島地区では、被災した6校の児童たちが合同の仮設校舎で一緒に授業を受けています。これまでと違う環境で学校生活を送る児童たちに楽しい時間を届けるため、ガチャピンと石川テレビのキャラクター「石川さん」、アナウンサーが訪問。約400人の児童と一緒に発声練習などをして触れ合いしました。

[輪島市立6校合同小学校]9月13日実施



サザエさんも参加 地震で隆起した輪島市の黒島海岸を清掃

能登半島地震で海底が最大4mほど隆起した黒島海岸で、市民やボランティアとともに清掃活動を行いました。一日も早い町の復興を願い、サザエさんも一緒に海辺のゴミを拾いました。アニメ『サザエさん』のエンディングでおなじみの“じゃんけん大会”も実施し、地元の人々と笑顔の交流となりました。

5月12日実施



番組ナビゲーターのアナウンサーが訪問 被災した保育園・幼稚園に『チャギントン』のおもちゃを寄贈

アニメ『GO! GO! チャギントン』のナビゲーターを務めるアナウンサーが、輪島市内にある保育園・幼稚園を訪れ、番組エンディングで流れるダンス「ジャンケントレイン」を子どもたちと一緒に楽しみました。また、チャギントンの鉄道玩具や、お風呂で使えるポスターを輪島市・珠洲市・能登町のすべての保育施設にプレゼントしました。

[かわいい保育園][わじまみどり保育園][海の星幼稚園]
2025年2月12日実施

あの日の教訓を忘れず伝え続ける 東日本大震災の復興支援を継続



30年後の福島に美しい桜並木を… 「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

フジ・メディア・ホールディングスは、「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」を2013年からサポートしています。30年後に子どもたちが誇れる桜並木をつくりたいという活動趣旨に賛同し、毎年植樹をしています。今回は10社35人が参加し、48本の桜の苗木を植えました。これまでに植えた桜は合わせて1,544本。満開の桜の下で笑顔が広がる日が来ることを願っています。

2025年1月18日実施



サザエさん一家がランナーをサポート 「東北・みやぎ復興マラソン」

東日本大震災の復興を支援する目的で2017年から始まった、東北最大級のマラソン大会のサポートを続けています。サザエさん一家が駆けつけ、ランナーたちにエールを送りました。フルマラソンは、震災時に津波によって浸水したエリアを通り、復興の軌跡を感じながら走ることがができます。震災の教訓を未来へとつなぐ大会を応援しています。

11月3日実施



あの日の教訓を伝え続ける 震災特別番組『わ・す・れ・な・い』

東日本大震災が起きた2011年以来、14年にわたって放送を続けています。今年は、能登半島地震でドライブレコーダーに映っていた人々の避難行動をつぶさに検証し、多くの証言から命を守るための教訓を探りました。また、世代交代が進む東日本大震災の「語り手」も取材し、実際に震災を経験した語り部が減るなか、将来に伝え継ぐために何が必要か考えました。

2025年3月11日14:45～15:45放送
『わ・す・れ・な・い～福島と能登～語り継ぐ震災の記憶』

映像とコンテンツの力で 子どもたちや地域の防災・減災力向上をめざす

フジテレビと横浜市は、「防災・減災の市民啓発に関する連携協定」を結び、災害から命を守るための活動に取り組んでいます。フジテレビが長期にわたって取材した被災地の膨大な映像や、貴重な証言から得た教訓を基に、フジテレビのエンターテインメント力を生かしたプログラムを提供し、子どもたちや地域の防災・減災への意識向上につなげています。また系列局とも連携し、地域の実情を踏まえた内容を盛り込み、より暮らしに密着した親子向け防災イベントも実施しています。



映像とクイズで学ぶ 小学校での防災授業 “命を守る” 学ぶ防災プロジェクト

横浜市との防災・減災協定に基づき、横浜市内の小学校を対象に防災授業を実施。大震災の際に、自ら考え、自分や大切な人の命を守る行動がとれるようにという狙いでプログラムを作成しています。低学年向けには楽しみながら学べるクイズ形式で、高学年向けにはフジテレビがこれまで取材し蓄積した映像を使って、地震の際の命を守る行動を学びます。学んだことを実践すべく、同日に避難訓練も実施しています。

【横浜市立港北小学校】7月2日実施 【横浜市立西寺尾第二小学校】11月9日実施



FNS系列局と親子向け防災イベント アナウンサーと「楽しくソナエル防災」

フジテレビと系列局のアナウンサーと一緒に学ぶ親子向け防災イベントを全国で展開しています。大災害が起きた時のために何を備えておけばよいのかをクイズ形式で学び、ガチャピンの人形を使った「毛布担架」を体験するなど、体を動かしながら楽しく防災・減災への意識向上につなげています。また、ガチャピン・ムックが防災ナビゲーターを務め、自助公助の向上を目的とした啓発活動・イベントも全国で開催しています。

【高知・高須第2幼稚園】5月2日実施 【こうち春花まつり】5月3日実施
【KTSの日2024】9月21日実施 【NSTまつり2024】9月29日実施

取材で得た教訓・過去の記録を 未来の防災に



明日をまもるナビ

『NHK民放6局防災プロジェクト4』を放送

民放5局とNHKでは「いのちにも守る」という合言葉を基に、局の垣根を超えた様々なプロジェクトを進めてきました。今回の放送では、多くの命が奪われた能登半島地震を取材したアナウンサーらが集まり、被災地域への情報の届け方、被災した人々と取材者がどう向き合うかなど、お互いの経験と知恵を共有しました。ひとりでも多くの命を守るために何ができるのか、これからも、ともに考えていきたいと思います。

4月7日10:05～11:00放送 (NHK総合)

明日をまもるナビ『NHK民放6局防災プロジェクト4 被災地の声に耳を傾ける』



めざましmediaで連載

「上垣アナの災害遺構探訪記」

自然災害の歴史から防災を学ぶプロジェクトをスタートしました。過去にどんな災害が起きたのか、その時人々はどんな行動をとったのか。全国にある「災害遺構」を巡り、先人たちが遺したメッセージや災害の爪痕から、その教訓を学びます。社会科の教員免許を持つ、上垣皓太郎アナが災害の歴史を解説し、また、防災士の視点から、防災に役立つ知識を紹介。めざましmediaで連載しています。



公式サイト <https://mezamashi.media/list/tag/saigai-ikou>

いかなる場合も 放送を継続するために

視聴者、社員・スタッフの命を守るため、未曾有の大災害に備え、日ごろから訓練や勉強会を重ねています。災害報道のあり方を考え、大規模災害が発生した際も放送を継続できるよう体制を強化し、最新情報のアップデートを常に行っています。

いかなる時も視聴者のみなさまの安全・安心を支え、正確でわかりやすい情報を迅速にお届けできるよう、そして、伝え続ける使命を果たせるよう努めています。



BCP対策・防災への 取り組み

系列各局と協力して毎年、大規模な災害放送訓練を実施しています。今回は、九州日向灘沖を震源とする地震（震度5強M7.2）発生後に、M8.0を超える大地震が発生し、津波が襲来する想定で特別番組の訓練を行いました。ヘリやドローンを活用し、各局エリアの中継やローカル特番との連携を検証し、視聴者への伝え方を確認しました。



伝える使命を果たすために 災害放送タイムライン策定

災害時にいつ誰が何をするのかを、事前に時系列にまとめた「フジテレビ災害タイムライン」は、2023年秋から報道や情報、アナ室、気象センター、編成、総務、人事、技術など社内の各部署が集まり、取材だけでなく、放送の継続や社員・スタッフらの命を守るために何が必要か、提唱者の松尾一郎氏とともに議論を重ね、去年6月から関東接近の台風で運用しています。



春と秋に全社で実施「防災ウィーク」 「レスキューキッチンカー®」も参加

2011年から「防災ウィーク」を年に2回設け、社内で働く人々を対象にした防災訓練などを実施しています。

- ・専用アプリによる安否確認システム訓練
- ・AED実演など防災シミュレーション訓練

被災地などで人命も廃棄食糧なども助ける「レスキューキッチンカー®」も参加。規格外野菜を使用したカレーを提供しました。

9月9日～13日・2025年3月10日～14日実施

For Our Planet

地球環境のために

気候危機へのアクションを！ 多角的に発信

美しい地球を未来に残すために何ができるのか。今、地球に起きていること、持続可能な未来に向けた取り組みなどを多角的に伝えています。視聴者のみなさまとともに考え、具体的なアクションへとつなげています。





気候危機への アクションを！

メディアの枠を超えたキャンペーン

様々なメディアが垣根を超えて連携し、気候変動について考えるキャンペーンやプロジェクトを展開。社会全体でのアクションや解決策を提示することで、より多くの人を巻き込み、具体的な行動を促す発信をめざしています。



日本のメディア165社が連携

「1.5℃の約束-いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」

日本の国連広報センターとSDGメディア・コンパクトに加盟する日本のメディア各社が連携するキャンペーンを2022年から展開しています。世界の平均気温上昇を、産業革命以前と比較して1.5℃に抑え、気候変動に歯止めをかけるため、メディアの伝える力、コンテンツを生かした発信で、ひとりひとりの行動変容を呼びかけています。



『気候変動で“食”が大ピンチ！』

NHK民放6局 特別番組と共通動画を制作・放送

3回目となる特番をNHKで放送。今回は“気候変動と食”をテーマに、日常の食卓への影響から、海外の貧困地域の厳しい状況、最新の技術まで、様々な視点から温暖化の課題と解決策を考えました。各局のアナウンサーが集まり、気候報道におけるメディアの役割や、今私たちにできることなど熱い議論を交わしました。

YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=rVNk1CyQX28>

9月29日 10:05～11:00放送(NHK総合)

#何もしないともっと暑くなる

SNSムーブメント

「1.5℃の約束」キャンペーンに連動したSNSムーブメントを展開し、より多くの人々に気候変動を食い止めるアクションを呼びかけました。フジテレビでは、アナウンサーらが、普段から実践している環境にやさしいアクションを紹介する動画を作成し、公式XやInstagramなどで発信しました。

8月1日～9月30日実施



お台場環境行動宣言

フジテレビは、気候変動が地球規模の課題となる中、放送の公共的使命と社会的責任を強く認識し、番組やイベント等を通じて、地球環境の保全と、脱炭素社会の実現に努めてまいります。

伝える、まもる



テレビの強みである創造力と発信力を活かし、番組やイベント等を通じて、気候変動の現状を伝え、地球環境の保全を呼びかけます。



臨海副都心の自然環境や海洋資源、生態系の保全に向け、地域コミュニティ、行政等との連携・協力を強化し、住み続けられる街づくりや環境との共生を目指します。



循環型社会の実現に向け、クリーン・エネルギーの活用や省エネ・省資源を推進し、企業活動から生じる環境負荷の低減に努めます。



地球環境の保全に向けて、社員の意識向上に努めるとともに、環境関連の法律や規制を遵守し、社会的責任を果たします。

2022年3月改定

フジテレビは、これらを通して持続可能な社会の実現を目指します

グループ・系列各社、近隣企業などと街を美しくする活動を実施



ゴミの量や種類を可視化する試みも

FMH各社と連携したフジテレビ周辺の清掃活動

フジ・メディア・ホールディングスでは、合同清掃活動を2012年から継続して行っています。2024年度は、7月、10月、3月の3回実施しました。

また、新たにスタートアップ企業「株式会社mica」と連携し、スマホアプリと連動するデジタルトング(Pois Tongs)を使い、拾ったゴミの可視化も試みました。ゴミの数や拾った場所、種類などをデータ化し、ゲーム性も持たせることで、楽しみながら取り組むことができ、参加者の一層の意欲向上につながりました。解析したデータは、周辺環境の把握や効率的なゴミ拾いにも役立てています。



デジタルトング(Pois Tongs)



全体の可視化結果



全国各地で一斉に清掃活動 「5・3・0(ゴミゼロ)の日」

語呂合わせで「ゴミゼロの日」となる5月30日にFNS系列各局と全国規模での清掃活動を実施しました。日本財団「海と日本PROJECT」の特別推進パートナーを務めるサザエさんも参加。訪れる人たちにお台場のビーチと美しい景観を楽しんでもらうため、この活動を継続していきます。

6月2日実施



ゴミのないお台場をめざして 近隣企業とともに清掃活動

臨海副都心に事業所がある会社や団体で構成される「東京臨海副都心まちづくり協議会」では、年に2回「清掃キャンペーン」を行っています。フジテレビも毎回参加し、地域と連動した臨海エリアの美化活動に積極的に取り組んでいます。

10月24日実施



訪れた人に笑顔の花を チューリップの球根や花植えに参加

フジテレビ本社ビル裏手のシンボルプロムナード公園で「東京臨海副都心まちづくり協議会」が主催する「花と緑のおもてなしプロジェクト」チューリップ球根植えに参加。近隣の企業・団体のみなさまと約2万球を植えました。春には見事な花が訪れた観光客を楽しませていきます。

6月19日・11月21日実施

社内における温室効果ガス削減への取り組み

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。2024年度のフジテレビ本社ビルのCO₂の排出量は16,816トン（速報値）で、東京都C&T制度による25%の削減目標を大きくクリアして約45%削減となりました。（使用電力は非化石証書によるカーボンオフセット含まず）



新設備導入で一層の節電 スタジオ照明のLED化

スタジオ照明のLED化を進め一層の節電に努めています。LED化を進めた報道スタジオでは、消費電力を約7分の1に削減、年間で約16万kWhの電力を削減しました。



本社屋オフィスフロアの改修により フロアあたりの電力消費の削減

本社屋の大規模修繕に伴うオフィスフロアの改修により、1フロアあたり約22%の電力消費削減効果を実現しました。



資源を無駄にしない番組づくり セットの再利用

パレットを彩色することでセットの一部として再利用したり、セットから出た廃材をセットパーツとして再利用するなど、廃材の再利用で資源の有効活用に努めています。



番組制作における紙の削減をめざして 報道番組で原稿のタブレット化を推進

報道番組『Live News days』『Live News イット!』を皮切りに番組制作においてDX（デジタルトランスフォーメーション）によるペーパーレス化を進めています。大きく目的を3つに定め、取り組みを始めました。

- ①タブレット導入により紙の印刷と配布をやめ、業務の効率化とペーパーレス化を図る。
- ②タブレット上で原稿を修正し、瞬時にスタジオや制作スタッフと共有できる利点を生かし、より正確で迅速な情報を伝えることをめざす。
- ③一部ペーパーレス化することで、報道局の紙文化と意識を変える。

これらを実現するために、制作支援システムにある各原稿データをPDF化し、台本にして共有する仕組みを構築しました。実証実験では、ワークフローの確認、Wi-Fi環境の構築、タブレットの管理方法など、多岐にわたって検証し導入に成功しました。成功の一番の鍵は現場の若手の熱意でした。積極的にアイデアを出し、携わるスタッフの理解を得ながら、よりよい運用の仕組みを確立し、日々の放送に生かしています。

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に基づく情報開示

フジ・メディア・ホールディングスは、気候変動を重大な経営課題のひとつと捉え、2022年5月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明しました。そして、気候変動が事業にもたらすリスクと機会の特定を行い、その対応策などについて検討を進め、2023年5月16日のサステナビリティ委員会において承認された内容を、東京証券取引所に開示しました。



グループ目標

対象：フジテレビ、サンケイビル、dinosの3社

2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減
2050年度までにカーボンニュートラルの達成をめざす

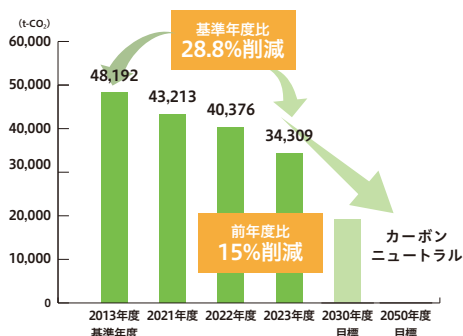
目標の進捗

フジテレビ本社ビル・湾岸スタジオで実質再エネ電力100%達成

↓
グループのCO₂排出量は基準年比28.8%減

（2023年度実績／2024年11月公表）

CO₂排出量の推移と目標（Scope1+2）



Leave No One Behind

共生社会をめざして

“誰一人取り残さない”社会へ

多様な個性や尊厳を尊重し、ともに支え合い、誰もがいきいきと暮らしていける社会の実現をめざして、50年以上継続しているFNSチャリティキャンペーンをはじめとした支援や発信を続けています。インクルーシブな社会への理解を多面的に深め、これまでの「バリア」を「価値」に変えていきたいと考えています。





2024年度支援国 ネパール

募金総額 2,806万3,866円

経費を控除した2,556万6,936円が公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地子どもたちの支援のために使われます。

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/charity/>



FNSチャリティ キャンペーン

世界の子どもたちの笑顔のために

FNSチャリティキャンペーンでは1974年の設立以来、ユニセフ（UNICEF：国際連合児童基金）とともに、厳しい環境で暮らす世界の子どもたちのための支援を続けています。現地取材し、番組などを通じて寄付を呼びかけています。



貧富の差が拡大 巨大地震の影響が続くネパールを支援 倉田大誠アナが現地レポート

2023年にネパールを襲った巨大地震。倉田アナが目にしたのは、あれから半年以上が経過しても、手つかずのまま残されたがれきの街でした。ひとたび被災すると貧困から抜け出せない環境、そして「政府から見捨てられた」と嘆く地域の人々の厳しい状況取材し、『めざまし8』で放送。多くの視聴者のみなさまから温かいご支援をいただきました。BS放送やCS放送でも複数回放送しました。

6月25日・26日放送



八神純子／宇海-UUMI-／澤近泰輔 チャリティライブを各地で開催

音楽を通じてより多くの方々にFNSチャリティ活動の内容を知っていただこうと、箱根彫刻の森美術館、お台場冒険王2024、ギンザめざましクラシックス、ヤガ祭り the 6th Legends、東京サンケイビル秋まつりなどで2024年度チャリティキャンペーンソング「Pass the Smile」を披露。チャリティキャンペーンへの支援と協力を呼びかけ、たくさんのご寄付をいただきました。

5月6日・7月21日・8月14日・9月26日・10月12日・10月22日実施



様々なイベントを通じて、支援を広く呼びかけ 2024年度の主な取り組み

- ・ 11月2日、フジテレビ社屋で「FNSチャリティ産直市」を開催し、群馬県や栃木県那須塩原市、新潟県津南町が出展（売り上げの一部を寄付）
- ・ 映画『逃走中 THE MOVIE:TOKYO MISSION』の興行収入から600万円を寄付
- ・ フジテレビ社員食堂でチャリティランチを提供（売り上げの一部を寄付）
- ・ 2025年3月30日、HANDSIGN主催の手話イベントでチャリティブース出展

インクルーシブな社会の実現をめざして



社屋イルミネーションAURORA[∞] ～アウェアネスカラー～

フジテレビの社屋イルミネーションAURORA[∞]（オーロラ）を活用し、社会課題への支援の意思を色で表すアウェアネスカラーのライトアップを2015年から継続しています。企業や地域と連携し、点灯に合わせた情報発信やイベントなども実施しています。毎年11月にお台場で実施される「ドリーム夜さ来い祭り」では、児童虐待防止推進月間に合わせ、オレンジ色にライトアップされた社屋の前で踊り子たちが迫力のある舞を披露しています。

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/aurora/>

2024年度に実施したライトアップ

4月2日	●世界自閉症啓発デー	9月23日～24日	●手話言語の国際デー	10月16日	●グリーンリボンデー 臓器移植への理解促進	11月14日	●世界糖尿病デー
4月19日～21日	●LGBTQ等的人権啓発	9月24日～30日	●結核予防週間	11月1日～3日	●オレンジリボン運動 児童虐待防止	11月29日～12月1日	●世界エイズデー
5月31日～6月2日	●禁煙週間	10月1日	●ピンクリボンデー 乳がんの予防啓発	10月4日～6日	●世界脳性まひの日	1月18日～20日	●イエローリボン運動 障害者権利条約批准の日
6月5日	●環境の日	10月10日	●世界メンタルヘルスデー	11月12日	●パープルリボン運動 女性に対する暴力の根絶	3月7日～9日	●国際女性デー
8月1日	●水の日					3月21日	●世界ダウン症の日
9月17日	●世界患者安全の日						
9月20日～22日	○国際平和デー						



カラダとココロ、幸せですか？ 「国際女性デー トークイベント」

在京民放とNHKが連携し、女性の生き方や健康について考えるための情報をテレビやSNSで集中して発信するキャンペーン「#これが私だから」を展開。アナウンサーらによる体と心の健康を応援するトークイベントも行いました。

2025年3月8日実施



さりげない配慮を学ぶ ユニバーサルマナー検定 3級講座

障害者や高齢者など、多様な人々への適切な対応を学ぶ講習会を実施。様々な事例を通じ、理解を深めています。5回目となる今回は、フジ・メディア・ホールディングスの各社から46人が受講。これまでに229人が受講しました。

2025年3月12日実施



パラアスリートを応援 「ふくのわプロジェクト」

不用になった衣服を回収・売却し、収益金をパラスポーツ（障害者スポーツ）の支援に充てています。社員食堂の横に専用ボックスを設置し、衣服を回収しています。（主催：産経新聞社）

2024年5月～2025年3月末までに これまでの合計
約 **744kg** を回収 >> **3.9t!**

人権・多様性についての勉強会を定期的を実施



国連人口基金駐日事務所長に聞く 身体の権利を守る「bodyright」

性被害、性暴力の問題を巡って、国連が提唱する「ボディライト」という“カラダ”を守るための“新たな概念”について、成田詠子駐日事務所長にお話いただきました。世界の流れ、日本の課題、メディアにできるアクションを考えました。

5月31日実施



語るタブーをなくす 「更年期障害」との向き合い方

働くすべての人々の心身の健康と、幸福をめざす取り組みの一環として、男女の更年期症状についての理解を深める勉強会を2回にわたって実施しました。自信やキャリアを損失することなく、自分らしく輝ける環境づくりを進めています。

10月23日・12月10日実施



テレビとLGBTQのカラフルな未来 当事者として働くこと、生きること

「多様性」や「違い」を認め、誰もが生きづらさを感じない組織・社会づくりに向けて、性的マイノリティ当事者から実体験で感じる生きづらさや、社会の変化などを伺いました。また、番組づくりや放送における課題についても議論しました。

2025年1月31日実施

顕彰制度／受賞番組など

映像情報メディア学会・技術振興賞コンテンツ技術賞

2024年4月

『バーチャルめざましくんの開発』

世界トップクラスのビジネス賞・スティービー賞で銅賞

2024年5月

『ReC Presents 裏切者潜む人狼遊園地～仲間を信じてミッションを完遂せよ～』

日本民間放送連盟賞

2024年9月

【番組部門】テレビ報道番組の優秀賞

『最期を選ぶ～安楽死のない国で私たちは～』

【技術部門】優秀賞

「クラウド技術をフル活用！コンテンツ2次利用推進システムDACXの開発」

ABU2024で審査員特別賞

2024年10月

『元日の大震災 日本航空石川野球部 ～つながる絆、恩返しの甲子園～』

ルミエール・ジャパン・アワード2024

グッドプラクティス・アワード本賞・4K部門特別賞をW受賞

2024年11月

『TimeTrip 伊豆半島ジオパーク ～噴火と衝突を繰り返す伊豆諸島～』

アジアン・アカデミー・クリエイティブ・アワード2024

フジテレビがレガシー賞受賞

2024年12月



『めざましテレビ』バーチャルめざましくんの開発



『最期を選ぶ～安楽死のない国で私たちは～』

第32回 地球環境大賞



大賞に森ビル 都心部に緑の空間創出

地球温暖化防止やSDGsの達成に取り組み、成果をあげている企業・団体などを表彰する「地球環境大賞」（主催：フジサンケイグループ）をサポートしています。第32回の大賞には、都心の複合ビルが立ち並ぶコンパクトシティーに、豊かな緑地空間と先進システムを設置した森ビルが輝きました。フジテレビは、この顕彰制度を通じ、産業の発展と地球との共生をめざした、豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。

特別番組『祭典直前パリ発！人生を豊かにするエコ暮らし』

森ビルが開業した麻布台ヒルズなど、屋上庭園や、生物多様性に配慮した緑や小川を取り入れた都心の豊かな緑地空間づくりに込められた狙い、新しい緑の街づくりに挑戦する人々の情熱に迫りました。また、環境への配慮を掲げたパリ五輪直前の街で、エコな取り組みを取材しました。

6月22日13:30～14:30放送（関東ローカル） 6月30日17:00～18:00放送（BSフジ）

第35回 高松宮殿下記念世界文化賞



世界の優れた芸術家を顕彰する「高松宮殿下記念世界文化賞」（主催：公益財団法人日本美術協会＝総裁・常陸宮殿下）の第35回授賞式典が、11月19日、常陸宮妃殿下をお迎えして、オークラ東京で行われました。フジテレビは趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げて支援しています。また、授賞式の模様や受賞者を紹介する特別番組も放送しました。

絵画部門：ソフィ・カルさん（フランス）	演劇・映像部門：アン・リーさん（台湾）
彫刻部門：ドリス・サルセドさん（コロンビア）	若手芸術家奨励制度：コムニタス・サリハラ
建築部門：坂茂さん（日本）	芸術センター（インドネシア）
音楽部門：マリア・ジョアン・ピレシュさん（ポルトガル／スイス）	

〔特別番組〕12月13日24:55～25:55放送（フジテレビ） 12月14日10:00～11:00放送（BSフジ）

視聴者とともに

自己検証番組を30年以上放送

『週刊フジテレビ批評』

テレビやメディア業界に関わる様々なトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組として1992年4月にスタートしました。視聴者から寄せられた意見や「番組審議会」の審議内容、専門家による番組批評とともに、ドラマ、バラエティ、スポーツ中継やニュース制作の舞台裏を披露。また放送の最新技術やBPOの見解発表など、テレビにまつわる事柄を解説することで、「テレビ」をより深く理解し、「メディアリテラシー」の向上につながる番組を追求しています。また近年は、メディアにもその責務が問われている防災やSDGsに関する発信にも力を入れています。

公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/newhihyo/>

毎週土曜5:30～6:00放送



番組向上への取り組み

番組審議会

番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2025年4月現在、弁護士、脚本家や教育者等有識者8人で構成されています。月に1回(8・12月は休会)あらゆるジャンルの番組を対象に、委員からご意見やご指摘をいただいています。議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組づくりに生かされています。また個別の番組に限らず、放送全般についての質問やご意見をいただき、議事録ダイジェストを社全体に共有しています。概要は公式サイトに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送しています。

社外モニター制度

視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対する意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは番組担当者に届けるとともに、イントラネットへの掲載を通じ、社内全体に共有しています。また、月に1度「モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について意見交換を行っています。

ご意見・お問い合わせ

視聴者のみなさまから寄せられた番組等へのお問い合わせ、ご感想、ご意見を、番組制作や各種サービスの向上に役立つよう、貴重な「視聴者の声」としてレポート化し、役員、社員に情報共有しています。

2024年度

電話 視聴者対応件数 **62,691件** メール 投稿件数 **310,927件**



コンテンツのバリアフリー

字幕放送

聴覚障害者やテレビの音が聞こえづらくなった方々にも番組を楽しんでいただくために、テレビの音声を「文字」にして画面に表示する字幕放送を行っています。ニュース等の生放送では、[生字幕(ほぼリアルタイムで字幕を付けること)]を付与しています。

解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんでいただくために、副音声を使って画面の解説をする解説放送を行っています。

2023年度実績

付与可能時間に対する付与率 **100%**

総放送時間帯に対する付与率 **72.5%**

2023年度実績

付与可能時間に対する付与率 **24.6%**

総放送時間帯に対する付与率 **10.4%**

適切な放送を届けるために

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり、放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるという使命を担っています。テレビが国民にとって身近なメディアであり、社会に与える影響が大きいことを十分に認識し、放送の公共性を重んじ、放送内容が国民の基本的人権を擁護するものとなるよう努めることで、社会的責任を果たしてまいります。

放送コンプライアンス

番組基準を定め、基本的人権の尊重をその基本方針のひとつとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように真摯に取り組んでいます。放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」（一般社団法人日本民間放送連盟発行）を全社員・スタッフに共有しています。また「放送コンプライアンス委員会」を毎月開催し、社員、管理職、経営陣（役員）すべての階層が連携して話題を迅速に共有し、業務の適正化やトラブルの再発防止策などについて意見交換を行っています。

ソーシャルメディアポリシー／SNSガイドライン／SNS対策部

フジテレビでは「ソーシャルメディアポリシー」を公式サイトで公開し、会社としてSNSを取り扱う方針や基本姿勢を表明しています。SNSでのトラブルは番組や社員・スタッフのみならず出演者にも及びます。そこでSNSの諸リスクを正しく認識し、様々な問題にも迅速に対処して、適切にSNSを活用できるよう「SNSガイドライン」を策定しました。

①出演者をまもる ②作り手を含む関係者をまもる ③コンテンツをまもる
といった3つの理念を掲げており、また最新動向や情報の更新及び社員がスマホやPCで常時確認できるように、このガイドラインをウェブ・アプリ化しています。2021年3月にはSNSに関する様々な問題に対応する専門部署として「SNS対策部」を設立。「SNSやネット上の誹謗中傷や迷惑行為は絶対に許さない」という信念のもとで弁護士及びメンタルケアの専門医によるサポートや、SNS上にあるフジテレビの番組・コンテンツ、出演者やスタッフ等への投稿を検知するモニタリング体制を備えています。また、有識者による社内勉強会を開催するなど、SNSリテラシー向上にも努めています。

ソーシャルメディアポリシー <https://www.fujitv.co.jp/company/socialmediapolicy/>



児童・青少年向け番組の充実

一般社団法人日本民間放送連盟の放送基準に従い、テレビメディアの社会的影響力を十分認識して、少なくとも週3時間、健全なる青少年の育成に配慮した番組を選定し、公表しています。17時～21時に編成する番組すべてを青少年の視聴に配慮して制作しています。



『今夜はナゾトレ』



『GO! GO! チャギントン』
©チャギントン



『ボクらの時代』



『ミラモンGOLD』



『ちびまる子ちゃん』
©さくらプロダクション/日本アニメーション



『サザエさん』
©長谷川町子美術館

誰もが働きやすい職場に

フジテレビ健康経営宣言

当社は、社員が健康であることを重要な経営課題のひとつと捉え、「健康経営」の取り組みを推進していきます。

豊かで多彩なコンテンツを世の中に発信する企業として、まずは社員ひとりひとりが幸せで心身ともに健康であることが必要と考え、社員およびその家族の皆さまの健康維持・増進を積極的に支援してまいります。

「ハラスメント根絶宣言」を2025年5月に発表。本宣言に社員が署名を行い、ハラスメントの根絶と防止に取り組んでいます。



ハラスメントは、個人の尊厳を不当に傷つける、決して許されることのない重大な人権侵害行為です。フジテレビは、「フジ・メディア・ホールディングス グループ人権方針」に基づく人権尊重経営を徹底するため、当社の人権尊重に対するコミットメントをここに新たに宣言します。また、その一環として「ハラスメント防止に関する規程」に則り、人権の尊重を第一に考え、あらゆるハラスメントを根絶し、未来永劫にわたり防止していくことをここに宣言します。

1. ハラスメントを一切許容せず、全てのハラスメントを「しない」「させない」「見過ごさない」ことを約束します。
2. 職位や、年齢、性別、国籍、生活様式など、様々な立場に置かれている誰もが安心して働ける職場環境を再構築し、お互いに理解を深めていく努力をしていきます。
3. 取引先などステークホルダーの皆様との関係においても、二度とハラスメントが起きないように、周知・徹底・行動していきます。
4. ハラスメントが社内外いずれの立場の者から、いずれの立場の者に対して行われた場合でも、フジテレビの業務に関連したハラスメントが発覚した際には厳正に対処します。社員に対するカスタマーハラスメントについても対象とし、社員の保護も徹底します。
5. 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に沿った相談窓口のさらなる整備・拡充に取り組み、ハラスメントの被害者に対しては、その意思を尊重した救済・是正措置を図ります。

フジテレビは、全てのステークホルダーが互いに尊重し合い、安心して働ける職場環境を整え、ハラスメントの根絶と防止に取り組んでいます。

多様な個性と能力を発揮できる環境づくり ダイバーシティ&人材育成

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。海外の大学を卒業する学生や、外国籍の方の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を生かした業務や後進育成を担っています。

研修制度・セミナーなど

社員ひとりひとりが、自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるよう、様々な研修制度やセミナーの充実を図っています。

- 階層別研修
- マルチワーク制度
- 海外研修・留学制度
- フジテレビカレッジ 「社内外の今起きていること、今知るべきこと、今身に付けるべき武器」を自律的に学ぶ機会を提供

女性活躍推進に基づく行動計画

採用した労働者に占める女性労働者の割合、男女の平均継続勤務年数の差異、管理職に占める女性労働者の割合などは国の定める目安値を超えており、女性の活躍が比較的進んでいます。しかし、これまで以上に女性が活躍できる職場環境をつくるため、次のように行動計画を策定しました。

【目標1】

「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める

2025年度採用実績

51.3%

(昨年度より8ポイントUP)

【目標2】

「男女の平均継続勤務年数の差異」を中長期的な期間でも維持・縮小できるように努力する

2025年3月末実績 平均継続年数差異

2.84年

(昨年度より0.34年縮小)

【目標3】 ※2025年4月30日発表

取締役の女性比率を継続して3割以上とする。
管理職の女性比率も1年以内に3割にする

2025年7月実績

部長以上(部長、副部長、局長)の
管理職の女性割合:

22.2%

役員(取締役、執行役員、社外取締役)の
女性割合:

33.3%

仕事もプライベートも充実させる 人生を豊かにする働き方をサポート

より柔軟で多様な働き方を尊重、推進することにより、生産性の向上とともに、ひとりひとりの仕事とプライベートの一層の充実をめざしています。

多様な働き方を支援する制度

●休暇を取りやすい環境整備

- ・ハッピーホリデーを設置
まとまった休みを取りやすくするための有給取得奨励日
- ・時間単位での年次有給休暇を取得できる制度の整備

●テレワーク・時差出勤の導入

- ・9時半から17時半までの就業時間を柔軟化
- ・育児・介護での完全テレワーク勤務の導入

●復職支援

- ・長期傷病休職からの円滑な復職に向けたサポートの充実
- ・配偶者の転勤や家族の介護、育児を理由に退職する社員を対象に、復職を支援(ジョブリターン制度)

●配偶者海外転勤休職制度

- ・配偶者の海外転勤に帯同する場合、一定期間の休職が可能

●介護支援

- ・家族に介護が必要になった場合、最大1年間介護休業の取得が可能

●育児支援

- ・病児保育を利用した社員に対して、病児保育手当を補助
- ・養育休職は、最長で満6歳に達した直後の3月末まで取得可能
- ・養育時短は、1日最大2時間、小学4年生の3月末まで取得可能

※一定の条件を満たした場合

●ヘルスケア休暇を新設

- ・生理や「月経前症候群」に伴う生理前の体調不良
- ・女性、男性の更年期による体調不良
- ・月1日まで有給として取得可能

男性育児休業取得率100%宣言に賛同

2024年度の男性の育児休業取得率 **54.0%**

多様性に配慮した制度

パートナーシップ宣誓制度により、パートナー及びパートナーの家族について届け出て、会社が認めた場合は、婚姻と同等の権利(休暇取得・結婚/出産祝い金・子女入学祝い金・福利厚生施設利用時の家族料金適用等)が認められています。



社員・スタッフの心身の健康維持をサポート

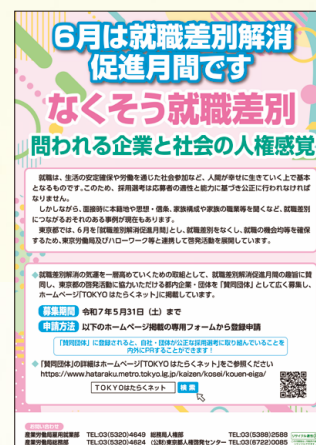
- 定期健康診断、人間ドック、脳ドック、婦人科検診
- 生活習慣病予防指導
- 社内健康相談センター設置(健康相談室/総合内科・眼科・整形外科・歯科等の診察や健康管理・健康相談等)

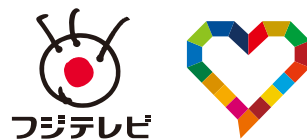
フジテレビの「がん対策」各種施策が評価 「令和6年度 がん対策推進優良企業」として表彰

厚生労働省が推進する国家プロジェクト「がん対策推進企業アクション」における「がん対策推進優良企業表彰制度」において、フジテレビは「令和6年度 がん対策推進優良企業」として表彰されました。フジテレビが選出されたのは、令和2年度、令和5年度に続いて3回目です。

就職差別解消促進月間 「賛同企業」に参加

東京都、東京労働局、ハローワークが就職差別解消の気運を醸成するため、6月を就職差別解消促進月間としています。その啓蒙活動に協力する企業として、初めて「賛同企業」に加わりました。





編集方針

本リポートは、フジテレビが2024年度に持続可能な社会の実現に向け実施した、アクションをまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを生かして、多岐にわたる取り組みを行ってきました。活動内容は【フジテレビ サステナビリティ・CSRサイト】を通じて随時公表していますが、本リポートはより読みやすく、みなさまにご理解いただきやすいよう編集したものです。SDGsの目標達成に向けて実施した取り組みを知っていただくきっかけになれば幸いです。本リポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績はフジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものも掲載しています。2025年実施のものについては年号を表記しています。

対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日

発行日 2025年10月1日

フジテレビ サステナビリティ・CSRサイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/>

発行: 株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.

〒137-8088 東京都港区台場2丁目4番8号

編集: サステナビリティ経営推進室CSV推進部 [✉ csr.ss@fujitv.co.jp](mailto:csr.ss@fujitv.co.jp)

フジテレビ
サステナビリティ・CSRサイト

